

道路反射鏡の新設・廃止・変更等の事務手続きマニュアル

平成29年5月改訂版

名古屋市緑政土木局 路政部道路維持課

はじめに

本マニュアルは、各土木事務所が管理する道路施設（道路照明、道路標識、道路反射鏡、横断歩道橋、のり面、擁壁、カルバート、道路情報提供装置）に関して、工事・点検等に関わる全ての方々、すなわち各事業者並びに本庁・土木事務所の職員を対象とするものです。

平成26年度から電子台帳化された現在の台帳管理システムは、台帳管理を一元化し、道路施設管理に大いに活用していくものとしてスタートしましたが、その後の法定点検の制度化に対応するために、この度、マニュアルの改訂を行うこととなりました。

台帳管理にあたっては、各事業者は設置・修繕工事、各点検業務委託、事故復旧・承認工事、単価契約工事等の作業完了後に、また整理組合や開発行為等の引継時に土木事務所に電子台帳の補正データを提出します。

土木事務所は提出された補正データや市職員の直営作業によるデータの内容を確認後、それらを道路維持課に提出することで電子台帳が補正されます。併せて、同様の流れで補正データに関連する各種調書、詳細な点検結果や写真データも電子データとして道路維持課に提出します。

道路維持課では、補正された電子台帳を基に維持管理支援システムにデータを反映させ、関連する電子データを一元的に保管し、台帳管理を行います。

台帳管理は、あくまでも日々の各土木事務所で行う道路施設1基1基の管理がベースにあり、それらが道路維持課へ提出されることで成り立っています。本マニュアルは台帳管理の事務処理手続きを円滑に行うために、各事業者並びに本庁・土木事務所の職員が実施する各ケースの補正手続きについてとりまとめましたので、事務処理の参考に活用していただきたいと思います。



「言葉の定義」

1. 「道路施設」とは : 各土木事務所が管理する道路照明、道路標識、道路反射鏡、横断歩道橋、のり面、擁壁、カルバート、道路情報提供装置のこと。
2. 「新設」とは^{※1} : 道路管理者が発注する工事により、既存の道路施設が無い所に、新しく道路施設を設置すること。
3. 「引継」とは^{※1} : 整理組合や開発行為等により、新しく道路施設を設置し、それを道路管理者が引継ぐこと。
4. 「更新」とは^{※1、※4} : 既存の道路施設を“全て撤去”した後に、同じ箇所になく新しくそれと同等の道路施設を設置すること。並行して“撤去”に係る「廃止」も忘れずに行う。
5. 「廃止」とは^{※2、※4} : 既存の道路施設を“全て撤去”すること。
6. 「変更（修繕）」とは^{※3} : 既存の道路施設の一部を取り替えたり、補修・修繕すること。
7. 「変更（移設）」とは^{※3} : 既存の道路施設本体を、そのまま異なる箇所に移して設置すること。
8. 「変更（錯誤）」とは^{※3} : 既存の道路施設と電子台帳の内容に相違（設置箇所の間違い、各種記録の間違い等）が発見された場合に電子台帳を修正すること。
9. 「変更（点検）」とは^{※3} : 既存の道路施設の点検を実施し、その結果を電子台帳に記録すること。

【備考】

※1 上記2.～4. は固有IDを道路維持課にて付与します。

※2 上記5. では固有IDを廃止し、今後の使用も禁止します。

※3 上記6.～9. は既存の固有IDに対して、データ内容の変更をします。

※4 上記4. 「更新」に際しては、5. 「廃止」を並行して実施します。

1. 補正区分毎の補正データの提出について

下記の表（1）を参考に必要なシステム補正資料を土木事務所担当者（監督員）へ提出して下さい。土木事務所担当者は、内容を確認の上、道路維持課担当者へ提出して下さい。

提出データのファイル名、ファイル形式、まとめ方はP.9～10を参照してください。

（1）システム補正資料要否表

補正区分	エクセル台帳	道路反射鏡調書等※1	点検・措置記録表※1	竣工図（構造図）	全景写真（表裏）	位置図
新設・引継・更新	○	○	△※2	△※3	△※3	△※3
廃止	○	-	-	-	-	-
変更	修繕	○	△※2	△※4	△※4	△※3
	移設	○	-	-	-	△※3
	錯誤	○	○	-	-	△※3
	点検	○	-	△※2	-	-

※1 道路反射鏡調書及び点検・措置記録表の様式(例)は、P.13～14を参照。

提出様式については、設計図書または土木事務所担当(監督員)の指示による。

※2 契約図書等に定めがある場合、土木事務所担当者(監督員)から指示がある場合については提出。

※3 道路反射鏡調書に記載があれば提出不要。

※4 構造の変更を伴う修繕の場合については提出。

2. エクセル台帳

エクセル台帳とは、諸元データをはじめ、位置（座標）データ、修繕データ、点検データなどがリスト項目となったエクセルで作成した電子台帳ファイルです。

エクセル台帳には、必須入力項目と補正するデータ項目のみを入力して土木事務所担当者（監督員）に提出します。（すべての項目を入力する必要はありません）

※補正区分によって記載する項目が異なりますので、P.11～12を参照してください。

3. エクセル台帳の記入方法

A欄：補正区分

「新設」、「引継」、「更新」、「修繕」、「廃止」、「移設」、「錯誤」、「点検」のうち、該当するものを選択する。※鏡体のみ更新は「修繕」、支柱の更新を含む場合は、「廃止」（既存道路反射鏡の撤去）＋「更新」（道路反射鏡の新設）として補正データの提出が必要となります。

B欄：年月日

補正区分ごとに、下表（2）の記入すべき日付を西暦で記入する。記入すべき日付が不明な場合は、契約工期（業務期間）がある場合は完了日、無い場合はエクセル台帳を提出した日付を記入する。

例) ○2014/4/1 ×平成26年4月1日 ×20140401 ×260401 ×2014.4.1 ×H26.4.1

(2)補正区分毎の記入すべき日付一覧

補正区分	記入すべき日付
「新設」	道路反射鏡の設置工事が完了した日付(Y欄と同じ日付)
「引継」	道路反射鏡の引継を受けた日付
「更新」	道路反射鏡の更新工事が完了した日付(Y欄と同じ日付)
「修繕」	道路反射鏡の修繕工事が完了した日付(AE欄と同じ日付)
「廃止」	道路反射鏡を撤去工事が完了した日付(AJ欄と同じ日付)
「移設」	道路反射鏡を移設工事が完了した日付
「錯誤」	道路反射鏡の錯誤が判明した日付
「点検」	道路反射鏡の点検が完了した日付(AB欄と同じ日付)

C欄：固有ID

固有ID「反射鏡（ミラー）のm(半角)＋2桁の区番号＋4桁の番号」を記入する。

例) m010001 →千種区の0001番の道路反射鏡と判別する。

D欄：土木事務所

土木事務所名を選択する。

E欄：管理番号

道路反射鏡調書等に記載の管理番号を記入する。柱1基に複数の反射鏡があり、枝番など複数の管理番号を付して管理している場合は全て記入する。

※半角の、(コンマ)で区切って記入する。

例) 1001-1, 1001-2, 1001-3, 2001 等

F欄：路線名

認定路線名を記入する。認定されていない路線の場合は「未認定」と記入する。

G欄：道路番号

認定道路の場合は道路番号を記入する。

H欄：場所

設置場所を町名まで記入する。

I 欄：区分

設置場所区分について、「路肩」、「歩道」、「路外」、「その他」から該当するものを選択する。

J 欄：設置者

設置者が道路管理者の場合は「道路管理者」、道路管理者以外の場合は「その他」、不明の場合は「不明」を選択する。

K 欄：管理者

管理者が道路管理者の場合は「道路管理者」、道路管理者以外の場合は「その他」、不明の場合は「不明」を選択する。

L 欄：設置方法

「単独」、「添架」から該当するものを選択する。

※「単独」とは、単独の支柱で設置されているものをいう。

※「添架」とは、道路反射鏡用の支柱以外に設置されているものをいう。

M 欄：添架対象

L 欄で「添架」を選択した場合は、電柱、道路照明等の添架対象施設を記入する。本市管理の道路照明など固有IDを有しているものは、固有IDを記入する。ここで、本マニュアルが意味する“固有ID”とは、本市が管理する次の構造物に付与されたものとし、その例を下表（3）に示す。

(3) 固有番号の例

構造物	固有IDの例
道路標識	S0201234
道路照明	L0505678
道路反射鏡	m080321
歩道橋	H1102
道路情報提供装置	D1402345
カルバート	C0102002
のり面・擁壁	N1602525

N 欄：クリアランス

反射鏡直下の舗装面から反射鏡板下端までのクリアランス (m) を「2.5 m以上」、「1.8 m以上 (2.5 m未満)」、「1.8 m未満」から選択する。

O 欄：ミラー種別1

「φ600」、「φ800」、「φ1000」、「□600×800」、「○ (丸鏡体) その他」、「□ (角鏡体) その他」から該当ものを選択する。

P 欄：ミラー種別2

1つの支柱に2枚の鏡体が設置されている場合、O欄と同様にミラー種別を選択する。

Q 欄：鏡面の材質1

O欄で選択した鏡面の材質を「メタクリル」、「ステンレス」、「強化ガラス」、「ポリカーボネート」、「その他」から選択する。

R欄：鏡面の材質2

P欄で選択した鏡面の材質をQ欄と同様に選択する。

S欄：基礎形式

「C o基礎」、「S p基礎」、「置き基礎」、「その他」から該当するものを選択する。

T欄：基礎寸法

基礎寸法（mm）を記入する。

*数値は半角、文字・記号は全角で入力する。

例) 500×500×600、φ500×600

U欄：支柱形状

「直柱」、「曲柱」から該当するものを選択する。

V欄：支柱径

「φ76.3」、「φ89.1」、「その他」から該当するものを選択する。

W欄：支柱の材質

支柱の材質を記入する。

例) 一般構造用炭素鋼鋼管

X欄：地際の構造

「C o」、「密A s」、「開A s」、「I L B・平板」、「土」、「その他」から該当するものを選択する。

Y欄：新設年月日

新設年月日を西暦で記入する。不明の場合は、空欄とする。

例) ○2014/4/1 ×平成26年4月1日 ×20140401 ×260401 ×2014.4.1 ×H26.4.1

Z欄：更新対象

更新に合わせ廃止した道路反射鏡の固有IDを記入する

AA欄：請負人・引継元

設置者が道路管理者の場合は設置を請け負った業者名を、他管理者から引き継いだ場合は引継元を記入する。なお、直営で実施した場合は「職員」と記入する。

AB：点検年月日

点検・措置記録表（P.15を参照）に記載した点検の実施年月日を西暦で記入する。

例) ○2014/4/1 ×平成26年4月1日 ×20140401 ×260401 ×2014.4.1 ×H26.4.1

AC欄：点検種別

点検種別を下表（4）に従い該当するものを選択する。

(4) 点検種別の例

点検種別	定 義
定期点検	5年や10年毎に定期的に行う点検
通常点検	道路パトロール等で行う点検
初期点検	設置後1年以内に行う点検

緊急点検	緊急に行う点検
詳細点検	定期点検等により異常が見つかり、さらに詳細な点検を実施する必要がある場合に行う点検

AD欄：点検者名

点検を請け負った業者名を記入する。なお、直営で実施した場合は「職員」と記入する。

AE欄：修繕年月日

点検・措置記録表（P. 15 を参照）に記載した措置の実施年月日を西暦で記入する。

例) ○2014/4/1 ×平成 26 年 4 月 1 日 ×20140401 ×260401 ×2014. 4. 1 ×H26. 4. 1

AF欄：修繕種別

「管理者工事」、「承認工事」、「占用工事」、「直営工事」、「その他」から該当するものを選択する。

AG欄：修繕内容

修繕内容を記入する。複数ある場合には半角の、（コンマ）で区切って記入する。

AH欄：修繕者名

修繕を請け負った業者名を記入する。なお、直営で実施した場合は「職員」と記入する。

AI欄：健全度

点検又は修繕等に基づいた健全度区分を下表（5）に従い該当するものを選択する。

(5) 健全度区分と定義

健全度区分	定 義
I 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防の観点から措置を講ずることが望ましい状態
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

参考資料:トンネル等の健全性の診断結果の分類に関する告示

(平成26年国土交通省告示第426号)

AJ欄：廃止年月日

廃止年月日を西暦で記入する。

例) ○2014/4/1 ×平成 26 年 4 月 1 日 ×20140401 ×260401 ×2014. 4. 1 ×H26. 4. 1

AK欄：廃止理由

「事故」、「老朽化」、「現地無」、「他管理者」から該当するものを選択する。

AL欄：緯度

支柱の位置で計測し、支柱が道路の両側にある場合は、いずれかの支柱の位置で計測して、世界測地系の DMS 形式 (dd° mm' ss. s'') で、「0.1 秒」単位まで記入する。

支柱の位置で計測する。(0.1秒で約3mのズレが生じます)

例) $\circ 35^{\circ} 10' 48.8'' \times 35 \text{度} 10 \text{分} 48.8 \text{秒} \times 35.10488 \times \text{日本測地系}$

AM欄：経度

支柱の位置で計測し、支柱が道路の両側にある場合は、いずれかの支柱の位置で計測して、世界測地系のDMS形式($dd^{\circ} mm' ss.s''$)で、「0.1秒」単位まで記入する。

支柱の位置で計測する。(0.1秒で約3mのズレが生じます)

例) $\circ 136^{\circ} 57' 21.4'' \times 136 \text{度} 57 \text{分} 21.4 \text{秒} \times 136.57214 \times \text{日本測地系}$

※一般的なYahoo地図やGoogleマップ等を使用して緯度・経度を得ようとする場合は、座標値が世界測地系WGS84形式(例 35.221717, 136.902968)となるため、AO欄“緯度”、AP欄“経度”の記入にあたっては座標値を世界測地系DMS形式(例 $35^{\circ} 13' 18.2''$, $136^{\circ} 54' 10.7''$)へ変換する必要があります。本市職員は維持管理支援システムから直接DMS形式の座標値を得ることが可能です。

AN～AQ欄：備考

その他、補足説明等が必要な場合に記入する。

※本マニュアルに記載のないこと、その他疑義が生じた場合は、土木事務所担当者(監督員)と協議すること。

4. 提出データのファイル名、フォルダ構成等について

(1) 新設・引継・更新の場合（固有 ID が無いケース）

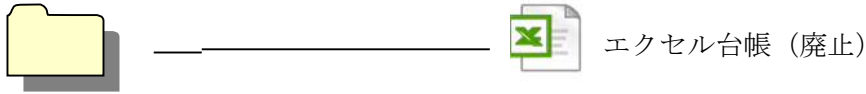


※各ファイルの項目は必ず「_」（アンダーバー）で区切ること。

日付は yyyyymmdd 形式（西暦で8桁表示）とし、エクセル台帳「B 欄」と合わせること。

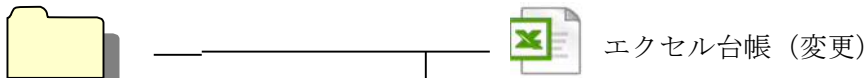
写真が複数ある場合にはファイル名の最後にファイル名+_通し番号を振ること。

(2) 廃止の場合 (固有 ID が有るケース)



廃止_施設名_区番号_提出日
(例: 道路反射鏡_01_20140401)

(3) 修繕・移設・錯誤・点検の場合 (固有 ID が有るケース)



変更_施設名_区番号_提出日
(例: 道路反射鏡_01_20140401)



※各ファイルの項目は必ず「_」(アンダーバー)で区切ること。

日付は yyyymmdd 形式 (西暦で 8 桁表示) とし、Excel 台帳「B 欄」と合わせること。

写真が複数ある場合にはファイル名の最後にファイル名+_通し番号を振ること。

5. エクセル台帳の記載項目

入力が必要な項目 ◎必須、○該当する項目があれば必須

△必要に応じて記入（既存データに誤りがある場合や空欄の場合等）

－入力不要（空欄にしておく項目）

項目	新設	引継	更新	廃止	変更			
					修繕	移設	錯誤	点検
A	補正区分	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B	年月日	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
C	固有 ID	－	－	－	◎	◎	◎	◎
D	土木事務所	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
E	管理番号	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
F	路線名	◎	◎	◎	－	－	◎	○
G	道路番号	◎	◎	◎	－	－	◎	○
H	場所	◎	◎	◎	－	－	◎	○
I	区分	◎	◎	◎	－	－	◎	○
J	設置者	◎	◎	◎	－	－	◎	○
K	管理者	◎	◎	◎	－	－	◎	○
L	設置方法	◎	◎	◎	－	－	◎	○
M	添架対象	○	○	○	－	－	○	○
N	クリアランス	◎	◎	◎	－	○	◎	○
O	ミラー種別1	◎	◎	◎	－	△	△	○
P	ミラー種別2	○	○	○	－	△	△	○
Q	鏡面の材質1	◎	◎	◎	－	△	△	○
R	鏡面の材質2	○	○	○	－	△	△	○
S	基礎形式	◎	◎	◎	－	△	○	○
T	基礎寸法	○	○	○	－	△	○	○
U	支柱形状	○	○	○	－	△	△	○
V	支柱径	○	○	○	－	△	△	○
W	支柱の材質	○	○	○	－	△	△	○
X	地際の構造	○	○	○	○	△	○	○
Y	新設年月日	◎	◎	◎	－	－	－	○
Z	更新対象	－	－	◎	－	－	－	○
AA	請負人・引継元	◎	◎	◎	－	－	－	○
AB	点検年月日	－	－	－	－	△	△	○
AC	点検種別	－	－	－	－	△	△	○
AD	点検者名	－	－	－	－	△	△	○
AE	修繕年月日	－	－	－	－	◎	△	○

項目		新設	引繼	更新	廃止	変更			
						修繕	移設	錯誤	点検
AF	修繕種別	—	—	—	—	◎	△	○	△
AG	修繕内容	—	—	—	—	◎	△	○	△
AH	修繕業者	—	—	—	—	◎	△	○	△
AI	健全度	—	◎	—	—	◎	△	○	◎
AJ	廃止年月日	—	—	—	◎	—	—	○	—
AK	廃止理由	—	—	—	○	—	—	○	—
AL	緯度	◎	◎	◎	—	△	◎	○	—
AM	経度	◎	◎	◎	—	△	◎	○	—
AN	備考1	△	△	△	△	△	△	△	△
AO	備考2	△	△	△	△	△	△	△	△
AP	備考3	△	△	△	△	△	△	△	△
AQ	備考4	△	△	△	△	△	△	△	△

6. 参考資料

(1) 点検・措置記録表（参考様式）

基本情報等

施設名・形式	管理番号	路線名	所在地	設置位置	緯度	43° 10' 20"
道路情報提供装置 門型式	〇〇〇〇	県道〇〇号 △△△線	〇〇県△△△市□□□町1-2-3		経度	141° 32' 12"
管理者名	点検実施年月日	2014年 〇月 〇日	点検員	〇〇〇〇(株)	〇〇 〇〇	
〇〇県 △△△土木事務所	調査実施年月日	— — —	調査員※1	—	—	
代替路の有無	緊急輸送道路	自専道or一般道	占用物件(名称)			
有	二次	一般道	—			


部材単位の健全性の診断(部材毎に最も悪い判定区分を記入)

点検時に記録				措置後に記録		
部材等	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)	措置後の判定区分	変状の種類	措置及び判定実施年月日
支柱	I					
横梁	IV	腐食	写真1	II	腐食	2014年 △月 △日
標識板または道路情報板	I					
基礎	I					
その他	III	腐食	写真2, 3	I		2014年 △月 △日

門型構造物等の健全性の診断(判定区分I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
IV	腐食・孔食が広範囲に進展しているため、緊急に措置が必要	II	2014年 □月 □日

全景写真



設置年月※2	道路幅員(m)	起点側	
1984年 〇月	8.5		

※1：調査員は、非破壊検査(板厚調査、き裂調査等)を実施した請負者等を記入する。

※2：架設年次が不明の場合は「不明」と記入とする。

状況写真(損傷状況)

施設名(形式)	道路情報提供装置(門型式)	管理番号	〇〇〇〇	路線名	県道〇〇号 △△△線	点検員	〇〇〇〇(株) 〇〇 〇〇	点検年月日	2014年 〇月 〇日
				管理者名	〇〇県 △△△土木事務所	調査員	—		

写真番号	写真1		写真番号	写真2, 3			
部材名	横梁 横梁本体		部材名	その他 管理用の足場			
変状の種類	腐食		変状の種類	腐食			
健全性の診断	点検時(調査時)	IV	健全性の診断	点検時(調査時)	III		
	措置後	II		措置後	I		
調査(方針)	—	調査年月日	—	調査(方針)	—	調査年月日	—
措置(方針)	横梁の補強	措置年月日	2014年 △月 △日	措置(方針)	管理用の足場の取替(更新)	措置年月日	2014年 △月 △日
備考欄			備考欄				

写真番号		写真	写真番号		写真		
部材名			部材名				
変状の種類			変状の種類				
健全性の診断	点検時(調査時)		健全性の診断	点検時(調査時)			
	措置後			措置後			
調査(方針)		調査年月日		調査(方針)		調査年月日	
措置(方針)		措置年月日		措置(方針)		措置年月日	
備考欄			備考欄				

〇部材単位の健全性の診断(判定区分)が、II、III又はIVの部材について記載する。なお、同一部材で、変状の種類が異なる損傷がある場合は、変状の種類毎に記載する。

〇写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

(2) 道路反射鏡調書 (=紙台帳) (参考様式)

道 路 反 射 鏡 調 書							
固有番号		種別		管理番号		設置者	
路線名		道路番号		区分		管理者	
場所				クリアランス		車道幅員	
設置方法			板の材質			路肩・歩道幅員	
基礎形式			基礎寸法			新設年月日	
支柱形式			支柱寸法			請負人名	
柱の材質							
備考1							
備考2							
備考3							
備考4							

設置個所・位置図	写真(表面)
レイアウト図 構造図(全体・基礎)	